



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)

2022/12/08

## 国際情勢分析シリーズ

### —行くも地獄・帰るも地獄の習近平体制—

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。国際情勢シリーズ。今日は中国の問題についてお話ししましょう。私は 11 月末の中国内部の動静について、様々な動画で見てビックリしたんですね。



中国全土で、主に若者たちが白い紙を掲げて、何と言いましたか。  
「習近平辞めろ！」「共産党支配打破！」いやあ、勇気がありますねえ。  
これは中国の国内法に照らせば一発アウト。処罰の対象になります。  
つまり、命懸けなんですよ。  
なぜ主に若者たちが、それを叫び出したのか。

10 月に習近平が国家主席として 3 期目に突入し、彼の支配体制が岩盤盤石になったひと月後に、これが起こった。よっぽどの不満がたまっているということなんです。  
それで、さしもの習近平氏も「ゼロコロナ対策を緩和する」と言い出したんですね。

習近平氏は「中国には中国のゼロコロナ対策がある」と言って、やった内容は厳格な都市封鎖。  
現在、外出にはスマートフォンの携帯が必須です。これは絶対条件。  
スマートフォン無しに出歩くのはダメなんです。

感染者ゼロ地域に住んでいるならスマホの表示は緑色。感染者が出ている地域に住んでいるなら赤い表示。しかし、緑色の表示の人でも、感染者と接触した瞬間に赤に変わるんですね。  
これは、デジタルによって 14 億人が完全にコントロールされているということです。  
一度赤い表示が出たら、その人が住んでいる地域・都市全体が完全ロックダウン/都市封鎖になってしまう。

習近平氏は「この方法によって、コロナをゼロに押さえ込んで来たのだ」と誇っていました。  
こんなムチャクチャなコントロール方法でゼロコロナに持って行くのは、民主主義国家にはとてもじゃないけど出来ません。共産主義独裁体制だからこそ出来る。民主主義国家には出来ない方法を使うことで、その国家が到達できないゼロコロナを達成している。  
つまり、こう言いたいわけですね。

「コロナにおいても、民主主義体制よりも中国共産党一党独裁体制の方が優れているのだ。流行り病の蔓延防止だけでなく、政治システムとして、民主主義よりも独裁主義の方が優れているのだ。」

この強引なやり方で人々は 3 年間閉じ込められていたのですが、遂に堪忍袋の緒が切れたというか、若者たちを中心に声を上げる人たちがたくさん出て来た。  
全国 100 以上の大学で、大規模デモが行われたと言われています。

それで、さしもの習近平氏も「これはヤバイんじゃないか。マズイんじゃないか」ということで、ゼロコロナ対策の緩和を言い出したんです。しかし、緩めたらどんな事が起こりますか。

実は中国では、ほとんどの高齢者にワクチン接種が（もちろん中国製のワクチンだと思いますが）されていません。ゼロコロナでやって来たので、ワクチンを打つ必要がなかったんですね。緩和策で人々の往来が自由になっていった時、ほとんどがワクチン未接種の高齢者層は、医療崩壊によって 200 万人の死亡が予測されているんです。

ゼロコロナを緩和しなければ若者たちの不満が高まります。緩和したら、高齢者の大量死によって家族・遺族の怒りの矛先が政府に向くことが予測されます。なので、行くも地獄・帰るも地獄。これが今の習近平体制なのです。

そのような時、中国の歴史、政権が取って来た方法はワンパターンです。国内で人民の怒りが政府に向き出そうとすると、外側に敵を作って、意識を外敵に向ける。かつての標的は日本でした。今は台湾なんです。

さて台湾の問題ですが、11月26日に台湾の統一地方選挙がありました。統一地方選挙は4年に1回の台湾総統（台湾大統領と考えてください）選挙の中間にあるので、総統の通知簿とも言われています。この選挙で、蔡英文（サイエイブン/1956-）氏が率いる民進党が大敗北を喫したんですね。民進党は中国と袂を分かち、台湾は既に独立しているという反大陸・反中国の政党です。それが大敗北。

これは、台湾の人たちが中国に対して融和的になっていることを意味しているのか。そうではないんです。敗北の原因をひと言で言うと、民進党が大規模経済政策・財政出動に打って出なかったのが決定的なんですね。

コロナの3年間、色んな経済的構造の変化がありますが、その一つは世界的な半導体不足です。私も今車を発注していますが、納期に半年以上も掛かる。自動車に必要な半導体が足りないというわけです。

今世界の最先端の半導体を供給できる国は数か国しかないんですね。その最大が台湾です。だから、台湾の半導体企業は、価格をかなり高めに設定しても飛ぶように売れるんですね。台湾の国家規模における貿易収支を見ると、非常に堅調な伸びを示している。ウハウハ状態ですよ。儲かってしゃあない。それで、台湾政府も油断したんです。

大企業は儲かっているけど、中小企業はどうなのかつちゅう話なんですよ。私の近所でも、コロナの期間に馴染みの飲食店がずいぶん潰れました。ついこの間オープンしたと思ったら潰れている。あんな有名な老舗が潰れてしまった。そなん、いっぱいありますよ。皆さんもそうじゃありませんか。

全体の貿易収支を見ると、大企業の好成績に引き上げられているので、ウハウハ状態だと勘違いし、本格的財政出動をしなかった。やったのは“事業者向けには45万円を3年間無利子で貸し出す”。この一つだけ。これで小さな企業・店舗・町の様々なお店がやっていけないわけがない。その恨みが民進党に向かい、その責任を取って、蔡さんは党首を辞任しました。次は、おそらく頼清徳（ライセイトク/1959-）氏が出て来ます。

彼は蔡英文氏よりももっと保守的なので、中国としては下手（へた）を打ったなと思いますよ。それはともかく、統一地方選挙では経済のみが問われたのであって、その一事で、中国に対して台湾の人たちのガードが下がったとか、融和的になったと言うことは出来ないと思います。

経済的な無策に対して怒りが湧き起こったのですが、それを燃え上がらせるために、実はフェイクニュースがたくさん出回ったんですね。

中国からのサイバー攻撃が選挙シーズンに繰り広げられて、敗北が大敗北にまで発展したのではないかとされています。

1年3か月後には台湾総統選挙があります。その時民進党は、蔡英文氏よりももっと保守の方が出て来ると思います。なので、この事をもって台湾が融和的になったということは出来ない。

が、一つ注目しなければならないのは、選挙の時、中国はサイバー攻撃によってフェイクニュースで惑わし、投票の傾向を大きくチェンジさせることができ得るのです。

これはアメリカの選挙でもそうでしたよね。私はこの点について非常に心配しています。

今年2月、ロシアがウクライナに入りましたね。ウクライナは日本から見たら遠い国ですよ。

しかし、ロシアがウクライナに入った時、こんな論調の政治家・評論家・マスコミがいました。どんな論調ですか。“どっちもどっち論”。

「ロシアはよその国に軍隊投入して攻め込んだから悪い。ロシアは悪いと確かに言える。

でも。ウクライナも悪かったんじゃないの？ そもそもウクライナが NATO に入りたいとか言うから、プーチンを刺激してこんな事になったんじゃないの？」

つまり、喧嘩両成敗というか“どっちもどっち”。ロシアも悪いがウクライナも悪い。

「弱い方の攻め込まれているウクライナは、犠牲をこれ以上増やさないように、ロシアを宥めるためにもう妥協しなさいよ！」「ゼレンスキー、いつまで踏ん張ってんねん！いい加減、英雄気取りをやめろ。他人の経済支援や武器で戦って、ナニが英雄やねん！」という人たちですよ。

これ、事の本質が全く見えてないです。

国際情勢については、解釈が分かれる問題と分かれぬ問題があります。

解釈が分かれぬ問題とは、“確定している国境を突破して、軍隊を入れて侵略戦争をすることは絶対悪”ということ。

ロシアはその絶対悪をやったから両成敗じゃない。どっちもどっちじゃない。ロシアが悪いんです。

このロシアに抵抗することを「どっちもどっちで、もういい加減にせえよ」と言うのは、完全に親ロシアの評論家やマスコミ陣・政治家の口車に乗せられているとしか言いようがないんですね。

私が言いたいのはここからです。

日本から遠く離れたウクライナの戦争でも、侵略した側の肩を持つような評論家や政治家が出て来るなら、日本の目と鼻の先の台湾に中国がバサッと入って来た時、台湾の肩を持つのではなく中国の肩を持つ評論家や政治家・オピニオンリーダーたちが必ず出て来ると思います。

そして「この問題に日本は関わるべきではない」と、台湾に協力することを阻止する言論を述べる人たちが必ず出て来るに違いない。

なぜなら、既に日本の中に、沈黙の親中国工作員のような日本人がたくさんいるからです。

それで、後戻りしないように今のうちに、いざという時に備えて、日本が自らの独立を守ることができる準備を早急に始めなければならない、と私は考えています。

こういうことを言うと、「高原さん、クリスチャンやろ。それなのに戦争賛成するんか。」

戦争賛成とか戦争しようとかではなく、戦争させないために、今私たちが出来ることは何かを考えたいのです。

日本人の悪い癖で、一定数の人たちは、戦争と名の付くものは絶対悪と考えています。

たとえそれが防衛戦争であっても、戦争と名の付く行為である限り、してはならないことなのだ！と思考停止している方が多い。

しかも厄介なことに、聖書の言葉を使って、そう思いこんでいる方が多いんですね。

この点については別の動画で、私なりの解釈を解説したいと考えています。

では、また、ごうちゃんねるでお会いしましょう。チャンネル登録もお願いします。

皆さん、お元気でいてください。さよなら！